

きゅうわたなべけしよいんおよびちゃしつ なんざんじゆそう
愛知県指定文化財「旧渡辺家書院及び茶室」（「南山寿荘」）屋根修理工事



旧渡辺家書院及び茶室（「南山寿荘」）南側外観

「旧渡辺家書院及び茶室」は江戸時代末期に武家渡辺家の別邸に、茶室と書院から成る建物として建てられたことから指定文化財の名称が付けられております。昭和13年、旧渡辺家の別邸からこの建物を昭和美術館の設立者である後藤幸三（1881～1977年）が自らの趣向をもって現在地に移築した後「南山寿荘」と名付けられたため、当館では通常「南山寿荘」と呼んでおります。

本建物は移築してから約80年が経ち、建物全体の屋根の傷みが目立つようになったことから、5ヶ年計画でこの建物全体の屋根の葺き替え修理を行いました。

5ヶ年修理工事の結果、屋根葺き材は傷んで使用できなくなった瓦や銅板、茅を同等の新しく製作したものと交換したことで江戸時代に建立された文化財としての風情を残したまま美観を取り戻しました。また、屋根下地材の補強、防水対策の補強を行ったことで今後の風雨に相当年数耐える屋根となりました。

今後も地域の茶道文化を伝える建物として管理と活用を進めて参ります。



▲修理工事前（平成27年）



▲修理工事完了後（令和2年秋）

—令和2年度屋根修理事業について—

令和2年4月1日～9月2日にかけて愛知県指定文化財「旧渡辺家書院及び茶室」の2階の大屋根の修理工事を行いました。本年度の修理工事は公益財団法人朝日新聞文化財団と愛知県より工事費用の助成を受けて行われました。貴重な助成金を頂戴いたしまして、厚く御礼申し上げます。

本年度の工事では2階の大屋根の破損した瓦、変色した屋根の銅板を取り替え、下地材の傷んだ部分の補修を行い、併せて樋の補修や避雷針設備の設置も行い、5ヶ年計画による建物全体の屋根修理が無事終了いたしました。以下、本年度修理工事の概要と成果をご紹介します。

銅板屋根



2階大屋根の屋根葺き材の木下地が傷んでいた箇所を修理し、新たな銅板で葺き直したことで耐久性が増しました。また、屋根頂部には避雷針設備を取り付け、木造文化財である本建物を落雷による損傷から守る対策を講じました。

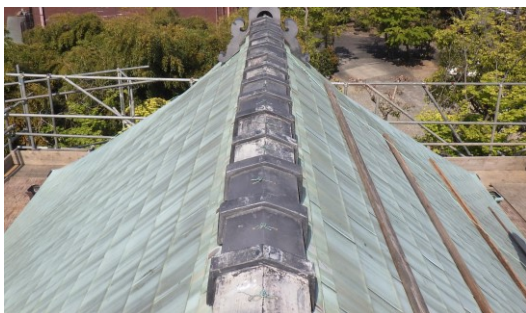
▲修理工事前



修理工事後▶

屋根瓦

大屋根の一番高い箇所に取り付けられていた瓦は一部がずれたり、傷んで割れたりしていました。一枚ずつ調査し、割れていた物は製作し直した瓦と替え、屋根の耐久性が向上しました。



◀修理工事前



修理工事後▶